

臨床研究

「神経画像検査法を用いた中枢性脳卒中後疼痛の客観的指標の探索」

1. 研究の対象

当院で脳 MRI を撮影した中枢性脳卒中後疼痛の患者さんと痛みが無い脳卒中後の患者さん

2. 研究目的・方法

脳出血や脳梗塞などの脳卒中によって運動障害や感覚障害などの後遺症が残りますが、その中で痛みが出てくる方がおられ、これを中枢性脳卒中後疼痛といいます。この痛みは通常のお薬では十分にコントロールが出来ないことも多い代表的な難治性疼痛で、多くの患者さんが日常生活に支障をきたしており困っています。私たちは、このような中枢性脳卒中後疼痛に対する新たな治療の研究開発をしています。より良い治療を開発するためには、その病気のメカニズムについて詳しく知る必要がありますが、まだまだ分かっていないことが多いのが現状です。また、痛みは主観的なもので、評価が難しく、より客観的な指標が望まれています。そこで本研究では、中枢性脳卒中後疼痛患者さんの脳 MRI と痛みが無い脳卒中後の患者さんの脳 MRI を比較することで、中枢性脳卒中後疼痛に関わる客観的指標を調べ、病気のメカニズムの理解を深めることを目指します。

3. 研究に用いる情報の種類

過去に撮影された脳 MRI（3D 構造画像など特殊な方法で撮影された画像）、患者さんの年齢や性別などの患者さんの背景因子、脳卒中の発症時期や種類など脳卒中の情報、痛みの有無や場所などの情報を用います。

4. 外部への情報の提供

現時点では、外部への情報の提供は予定しておりません。

5. 研究組織

大阪大学大学院医学系研究科 脳神経機能再生学・脳神経外科学 細見 晃一

社会医療法人大道会 森之宮病院 宮井 一郎

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

国立大学法人 大阪大学大学院医学系研究科 脳神経機能再生学・脳神経外科学

細見 晃一（研究代表者・研究責任者）

住所：大阪府吹田市山田丘 2-2

電話番号：06-6210-8435

研究責任者：

国立大学法人 大阪大学大学院医学系研究科 脳神経機能再生学・脳神経外科学

特任講師（常勤） 細見 晃一

研究代表者：

国立大学法人 大阪大学大学院医学系研究科 脳神経機能再生学・脳神経外科学

特任講師（常勤） 細見 晃一